



637号

〒144-0052 東京都大田区蒲田 5-10-2  
 日港福会館5階  
 Tel 03(3733)5621 Fax 03(3733)5622  
 メール rouren@kensu.jp  
 ホームページ http://www.kensu.jp/  
 全国検数労働組合連合  
 書記局



# 6月5日 3ヶ月ぶりに春闘交渉再開

## 事前に示された諸要求の「文書回答」に対し追求

### 諸要求を中心に文書回答

コロナウィルスの感染拡大によって春闘交渉が3月11日から中断している中、先月28日に検数面協会から春闘諸要求に対し、文書回答が示されました。

検数面協会が示した文書回答の内容については、賞金引上げ項目以外の「労働時間短縮」「産別協定等」に基づく継続課題の履行「なきを要する」項目となりました。

### 週休二日制の回答に大きな差

検数労連は文書回答が示された翌29日に中央闘争委員会を開催して、諸要求回答項目について協議しました。回答の特徴点としては、港湾春闘の争点に位置付けてられている「週休二日制」問題に対する検数面協会の回答に大きな考え方の違いが見受けられました。

### 産別協定不履行状態の日検

週休二日制について、全日検は「4月1日から週休二日制を実施している」としましたが、日検は「具体的内容として対応すべく企業内労使で協議する」との回答に留まっています。本来、週休二日制問題は産別協定上、4月1日から実施するのが当然であり、今日時点において実施出来ていないのは、産別協定不履行になっていると言わざるを得ません。

### 産別春闘継続課題の前進へ

3ヶ月ぶりとなる6月5日(金) 14時から開催する第4回検数労連交渉では、事前に検数面協会から示された諸要求回答に対する意見等を展開し「産別春闘協定等に基づく継続協議課題の履行」を中心とした諸要求項目の修正回答を強く求めていきます。同時に賞金引上げの考え方も追求していきます。

### 「週休二日制問題」事務折衝を通じて強く申し入れ

日検から週休二日制に関し「今後要求に対し、現実的かつ具体的内容として対応すべく、企業内労使で誠意をもって協議していきたい」とする回答が示されました。この回答に対して、検数労連は、6月2日(火) 15時30分から日検と緊急事務折衝を開催し、事前に文書回答で示された「週休二日制」の考え方について修正するよう強く求めました。

日検は「現時点において具体的な考え方は示すことは出来ないが、組合からの指摘部分については、持ち帰り上層部に伝えることとする。ただし、5日に開催する第4回交渉の中で意見反映できるかは、何とも言えない」との考え方が示されました。

組合は、今春闘の賞金引上げ部分以外の「目玉」と考えており、週休二日制問題の前進がなければ、春闘の長期化も辞さない覚悟である旨を強調しました。

### 夏季一時金闘争に向けて

夏季一時金闘争は、春闘と同時並行で進行していくことになります。

中央としては、過日開催した全国代表者会議にて確認された各地域労連、支部からの夏季一時金に対する率直な意見をしっかりと受け止めたいうえで、全国団結によって組合員とその家族の安定した生活の確保に向けて、たたかいを構築していきます。同時に組合員の生活不安の解消と一時金への切実な思いを前面に据えながら交渉に臨んでいきます。

なお、要求については、第71回中央委員会で確認された要求方式のもとに昨夏同様「乗率3ヶ月+一律10万」で要求していきます。

#### 闘争日程(予定)

- 6月09日(火) #1交渉 要求提出 10時~
- 6月09日(火)~15日(月) スト権投票期間(15日中央集約)
- 6月16日(火) #2交渉 基礎数字(予定)
- 6月22日(月) #3交渉 有額回答に向けた考え方(予定)
- 6月25日(木) #4交渉 有額回答指定(予定) 以降、適宜交渉

今年の検数春闘は2月12日の第1回交渉からスタートしましたが、コロナウィルスの感染が拡大したことで、3月11日の第3回交渉を最後に春闘は事実上中断を余儀なくされました。その後、政府が緊急事態宣言を発出、感染防止対策として「3密」を避けるよう呼びかけていることを踏まえ、検数労連は水面下で交渉促進に向けた事務折衝を重ねてきました。

折衝の中で検数面協会は「現在の状況下で通常の春闘交渉を開催するのは困難である。しかし、産別交渉の動向を注視しながら、日程や交渉について工夫しながら協議をすすめていきたい」との考え方を表明しました。これを受けて労使が具体的な交渉の進め方について調整してきました。

### 20 港湾春闘状況

5月29日、全国港湾および港運同盟は合同戦術委員会を開催し、以下の点を全体確認しました。

- ◎ 中央港湾団交が再開された場合の組合側の陣容については、全国港湾常任中執16名、港運同盟5名とする。
- ◎ 今春闘での争点(焦点)は「週休二日制」「定年制」「産別労災補償」となる。
- ◎ コロナ対策に係わる要求についても同時並行で進める。
- ◎ 中央港湾団交への再開の見通しの不透明感は拭えないが、回交再開を申し入れた経過の再確認と今後の取り組みへの意思統一を必要である。
- ◎ 6月10日に合同中央闘争委員会を開催する。

### ～ 各単組の取り組み状況 ～

- 全港湾 140分会中78分会に有額回答。平均3,300円。
- 日港労連 6月8日、春闘要求の前進に向けて港荷交渉を開催。
- 検定労連 海事検定職組は昨年並み改定水準を確認し、交渉中。シンケン労組は4月6日、4,181円で大筋合意。
- 全倉運 5月8日現在、28組合単純平均4,862円。
- 大港労組 5月20日に船内統一交渉するも「検討に値する回答なし」次回回交未定。